

これ
鉛筆画です。

「無数の輝く生命に捧ぐ」(部分) 2011-13 色鉛筆 紙



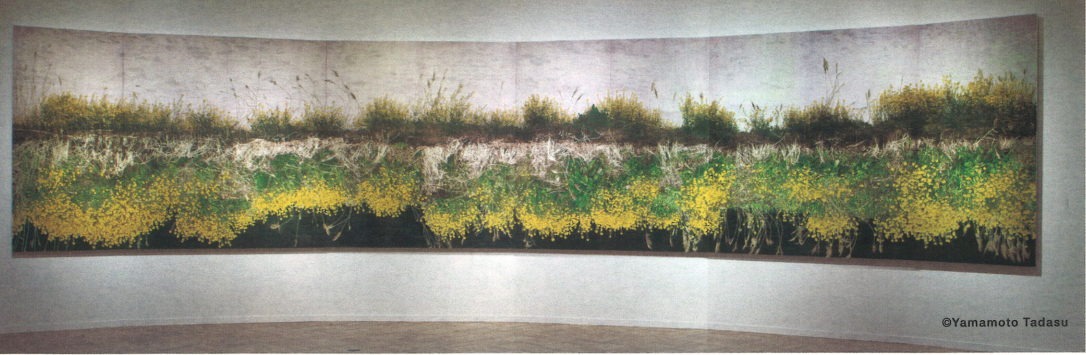
超絶技巧を超えて
吉村芳生展

2023 fri sun
7/21-8/27

高知県立美術館
県民ギャラリー

開館時間=9:00~17:00(最終入場は16:30)※7月21日は10:00~17:00

主催=高知新聞社、RKC高知放送 後援=高知県、高知市、エフエム高知(順不同) 企画協力=株式会社アートワン



百花繚乱 スランプに陥る中、1990年頃から取り組むようになった花の作品。



左：《コスモス》2000-07、色鉛筆・墨／紙 中：《ケシ》2005、色鉛筆／紙 右：《モッコウバラ》2000、色鉛筆／紙、みぞえ画廊

超絶技巧? そんな単純な言葉で説明することはできません。毎日描き続けた膨大な数の自画像、1文字1文字をすべて書き写した新聞紙、10メートルの色鉛筆画一。吉村芳生が生み出した作品は、どれも超絶リアルでありながら、見る者の度肝を抜く凄みを感じさせます。1950年、山口県に生まれた吉村芳生が一躍注目を浴びたのは2007年のことでした。この年に開かれた「六本木クロッシング2007」展(森美術館)に出品された作品が大きな話題となり、吉村は57歳にして突如、現代アート・シーンの寵児となったのです。本展は吉村芳生の回顧展として、初期のモノトーンによる版画やドローイング、後期の色鮮やかな花の作品、生涯を通じて描き続けた自画像など、代表作にて吉村の全貌を伝えます。2013年に惜しまれつつ早逝した吉村芳生の、ただ上手いだけの絵ではない、描くこと、生きることの意味を問いただす真摯な作品の数々を、ぜひその眼で目撃してください。

入場料	一般	1,200(1,000)円
	高校・大学生	800円
	小・中学生	600円
	※()内は前売り料金、未就学児無料	

〔前売り券販売所〕
県立美術館ミュージアムショップ、サニーマート(一部店舗除く)、
フジグラン(高知・葛島・野市)、こうち生活協同組合(コープよしだ・
コープかもべ)、県庁生協売店、ローソンチケット(Lコード:62554)

お問い合わせ:高知新聞企業 事業部
088-825-4328 ※平日9:30 ~ 17:30

自画像の森

生涯で2000点を超える自画像を描いた吉村。
新聞の一面に大きく自画像が描かれたシリーズでは、
すべて同じ画家の顔であるにも関わらず、
記事内容を反映した多様な表情に
つい引き込まれてしまいます。



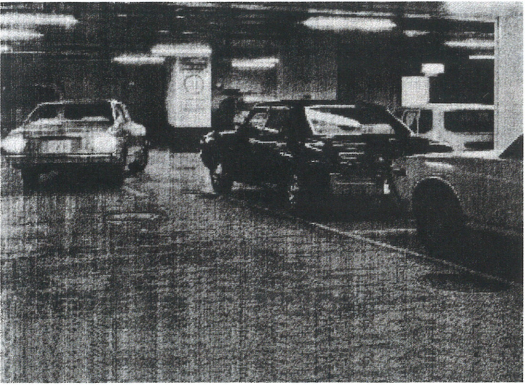
《新聞と自画像 2008.9.17 日本経済新聞》
2008、鉛筆・水性ペン・墨・水彩／紙



ありふれた風景

日常の一コマを撮影したモノクロ写真にマス目を引き、
一マスごとを模写する手法。
画業の初期に編み出された超絶技巧です。

上：《ジーンズ》1983、鉛筆／紙
右下：《A PARKING SCENE No.26 (A)》1979、シルクスクリーン／紙



※本展は新型コロナウイルス感染症
防止対策を行った上で開催します。
詳しくは高知新聞企業
ウェブサイトをご確認ください

